



令和7年度 学校安全総合支援事業 活動報告書

守ろう、
支えよう、
大好きな故郷

■はじめに

西尾市は、平成26年5月に愛知県が公表した南海トラフ地震の被害予測調査結果において、長い海岸線と軟弱な地盤を抱えていることなどから、県内で最も深刻な被害が予測されています。

特に津波被害が危惧されており、本市では平成30年3月に「津波浸水避難シミュレーション（現在：津波避難計画）」を作成し、市民の皆様には、津波発生の際は津波浸水想定区域外へ避難することを推奨してきました。

そのような中、平成30年度より愛知県教育委員会から本事業の委託を受け、学校安全に向けた取り組みを進めてきました。

これまでモデル地域として、津波被害が危惧されている「一色地区(H30)」「吉良地区(R1)」

「寺津地区(R2)」「福地地区(R4)」を、地震による被害とともに、風水害において甚大な被害が想定されている「東部地区(R3)」「幡豆地区(R5)」「平坂地区(R6)」を設定しました。

令和7年度は、地震による被害とともに、風水害（内水氾濫、外水氾濫）において甚大な被害が想定され、地震津波における指定避難所になっている学校を含む「西尾地区」をモデル地域とし、命を守るための防災活動を進めてきました。

■事業の名称

昨今、全国各地で災害が発生しており、これまで以上に防災に対する意識強化を図るとともに、学校安全に係る取り組みをさらに進めていくことは重要課題となっています。

一方で、災害に対して過剰になりすぎることは、子どもたちの故郷に対する愛着が薄れてしまうことにも繋がりかねません。中には、この先何十年と地元で生活し、地元で活躍する子どもも多くい

るはずです。そこで、「防災」に関する学習を通して、有事の際は故郷を守り、支えていける防災リーダーとして活躍できる人材となってほしいという願いを込め、本事業の名称を

**「守ろう、支えよう、
大好きな故郷（ふるさと）」**
としました。

■事業の主な目標

①児童生徒が地震津波や風水害等に対する正しい知識を身につけるとともに、災害発生時には、
防災リーダーとして積極的に活動できることをめざす。

②児童生徒が取り組んだ成果等を外部に発信していくことで、
学校間、地域間の防災に対する意識の差の解消をめざす。

■モデル地域及び拠点校の設定

►モデル地域／西尾地区 ►拠点校／西尾中学校

令和5年3月に発行された「西尾市洪水ハザードマップ」によると市域のおよそ3分の1が浸水し、全人口約17万人のうち約14万人が避難する想定となっています。さらに近年の台風の大型化や線状降水帯による大雨の頻発や長期化などからも風水害に対する備えが必要です。

また、「西尾市津波ハザードマップ」によると、西尾市において津波災害によって洪水同様およそ3分の1が浸水する想定となっております。

現在、市内の学校の多くは、津波警報等が発表された場合、児童生徒が在校中であれば高層階へ垂直避難することになっています。一方で、市としては、津波浸水区域内の住民（健常者）には、原則として津波浸水想定区域外へ避難することを推奨しています。

►モデル地域校／西尾小学校・花ノ木小学校

それらを踏まえ、風水害や津波被害などの幅広い知識や避難方法を周知・習得する必要があり、津波からの避難者を受け入れる立場にもなり得る西尾地区をモデル地域に設定し、事業を進めることにしました。

また、自らの命を守ること（自助）はもちろん、「守られる側から守る側へ」という意識を育てるこ（共助）が大切であると考え、防災リーダー育成の観点から西尾中学校を拠点校とし、西尾中学校の1年生を中心に防災学習を進めていきました。

■実践委員会の設置

年3回の実践委員会（学校関係者、地域団体、行政で組織）を通して、より効果的な活動方法や各校の課題などについて意見交換をし、防災教育アドバイザー等の指導・助言をもとに、実践計画の見直しを図っていきました。

防災教育アドバイザー近藤ひろ子氏、西尾中学校長、西尾地区自主防災会連絡協議会会长、西尾中学校PTA会長、西尾警察署、西尾市消防本部、モデル地域3校教員、県教育委員会、市教育委員会、危機管理課



► モデル地域3校での「危機管理課 防災講話」

自然災害の恐ろしさ、西尾市や各校区における被害想定、小中学生が発災時に自宅や学校などできること、西尾市の災害に対する備えなどについて紹介するため、危機管理課職員による防災講話を実施しました。



児童生徒の感想

- ・自助、共助、公助がとても大切。
- ・家具を固定して、出入口をふさいだり下敷きになったりしないように配置したい。
- ・家族と防災グッズの確認や避難場所の話し合いをしておきたい。
- ・身の守り方を教えたり、訓練に参加したり、他にできることはないか考えていきたい。
- ・自分だけでなく、他の人の命を守り、みんなのためにできることをやれる人になりたい。

- ・心のどこかで他人事に思っていたけれど、自分が生きている間に来るかもしれないと思うと怖くなった。
- ・災害はいつ起きるか分からぬからこそ、日頃から防災について意識し、備えることが大切だと思った。
- ・中学生になったからこそ「共助」を意識し、災害時に以前よりも一つレベルアップしたことを頑張りたい。
- ・家族や身近な人と話し合い、周りの人の防災意識を高めるきっかけをつくりたい。

► モデル地域3校での「近藤ひろ子防災教育アドバイザー防災講話」

風水害や地震・津波などの災害に関する正しい知識を身につけるため、近藤ひろ子防災教育アドバイザーによる防災講話を実施しました。

児童生徒の感想

- ・防災は、「命を守ること」と「みんなと一緒に生き延びていくこと」が大切だと分かった。
- ・これなら私たち中学生でもできそうだなと思うことがたくさんあった。
- ・災害は他人事ではなく、常に自分事としてとらえて、自分だったらどうするべきかを考えて備えておくことが大切だと思った。



西尾小学校では、PTA教育講演会とタイアップすることで、多くの保護者の方にも講話を聞いていただきました。

- ・これからは家族と頻繁に防災について話し合い、地域の方々と共に生き延びたい。
- ・教えていただいた「お役立ち情報」などをたくさん的人に伝え、一人でも多くの命が救われるようにしていきたい。
- ・人とのつながりが大切だと学んだので、あいさつをしたり町内会の行事に参加したりして、地域の人と積極的に関わっていきたい。
- ・中学生は「地域の大きな力」と言われていたので、そうなれるように状況に応じて自分で判断して行動できるようにしたい。

保護者の感想

- ・歌で大事なことを子どもにも分かりやすく伝えてくれるのが良かった。
- ・低学年にも、こういう機会があるとよい。
- ・子どもも一緒に聞けたので、一人の時どうするかなど、改めて家庭で話し合っておきたい。

► 西尾中1年生 「HUG学習（避難所運営ゲーム）」

様々な事情を抱えた避難者を適切に配置し、避難所で起こる様々な出来事への対応などの避難所運営を模擬体験するために、西三河県民事事務所職員を講師にお招きしてHUG学習を行いました。

生徒の感想

- ・運営の方の気持ちが分かったので、少しでも手伝えるように行動したい。
- ・それぞれ人は事情があるので、苦しい思いや悲しい思いをさせないようにしたい。
- ・グループでたくさん意見が出て、考えがすごく深まった。
- ・消防団の方のアドバイスがあったので、とてもスムーズに進んだ。



- ・せっかく避難して助かった人たちが、避難所で亡くなることがないように積極的に行動していきたい。
- ・お互いに支え合えるような雰囲気を大切にし、サポートすることだけなく頼ることも意識していきたい。

► モデル地域3校での「風水害マイ・タイムライン講座」

この地域に甚大な被害が想定されている風水害について、正しい知識と避難方法を理解し、災害時に「いつ・だれが・何をするのか」を整理するために、愛知県河川課職員を講師としてお招きし、マイ・タイムライン講座を行いました。

児童生徒の感想

- ・いつなにが起こるか分からないので、家族で集合場所とか決めたり持ち物の整理を確認したりして、安心安全にしていきたい。
- ・やらなければならぬことが思いのほか多いことに気づき、そのやらなければならぬことをやる順番を決めることができたので、もし何かあった時も安心できると思った。
- ・防災アプリを使って初めて自分の家にどんな被害があるのかを知ることができた。
- ・これまでには、自然災害のことを家族と話し合うことがなかったけど、防災タイムラインのおかげで、話すきっかけをくれたり、災害時、どうすれば良いかがはっきりしたので、少し安心した。

花ノ木小学校では、授業参観日に実施したことで保護者の方と一緒に考えながら作成することができました。



保護者の感想

- ・普段なかなか意識する機会がないため、とても有効な時間だった。
- ・必ずしも指定された避難場所に避難するわけではなく、安全が確保されているところが避難場所になることが分かった。

► 西尾小6年生・花ノ木小4年生「災害クッキング講座」



児童の感想

- ・とても美味しかったので、もらった紙のレシピを見て、また家で作ってみようと思った。
- ・家族だけでなく、他の学年の友達や地域の人たちにも教えてあげたい。
- ・なるべく水を使わないために袋の中で調理しているのがすごい！と思った。
- ・災害時は水道も電気もガスなども使えなくなるから、その時などに買って取っておくと良い物などの意識がもてた。
- ・ローリングストックの内容を伝えて実際に行おうと思った。

名古屋文化短期大学の山田実加教授をお招きし「防災を楽しむこと」をテーマに、災害時の食に特化した講座を行い、防災意識の向上を図ることを目的に実施しました。

災害時に活用できる調理方法であるパック・クッキング法（ポリ袋とカセットコンロを使用）を教えていただき、児童たちは、リゾットや和風蒸しケーキなど4品を作り、試食体験をしました。

また、希望される保護者の方を募ったところ、多くの方が参加してくださいり、子どもたちと一緒に調理や試食をしていただきました。

- ・今は最低限の防災グッズしか家に置いてないけど、今回の講座を受けて、もう少し防災グッズを家に常備したり、食べ物なら定期的に賞味期限などを確認したりするのを意識していきたい。
- ・講座に参加する前は、災害時の食べ物などは災害用のものしか食べられないと思っていたけど、この講座を通して、スーパーなどで売っている、いつもの料理に使うような一般用の食品でも、混ぜ合わせたりお湯を使って温めたりすることで、いざという大きな災害の時の災害食になることが分かった。

保護者の感想

- ・子ども達だけでも、たくさんの品数の料理ができることに驚いた。
- ・災害時にインスタントのものくらいしか食べられないと思っていたが、家でも備蓄のジャンルを増やそうと思った。
- ・料理というとどうしてもハードルが高くなりがちだが、子ども達でもできる今回のようなものを知れたことがよかったです。
- ・料理を普段しない子ども達も、協力して行うことができ、共助につながると感じた。



西尾中1年生「防災講座」

●救出救護技術講座

西尾市消防本部署員と地元校区の消防団員を講師としてお招きし「救出救護技術講座」を行いました。災害発生時に、一人でも多くの方の命を守るために救出救護技術として「簡易担架による搬送法」「ロープ結索」「三角巾包帯法」「水消火器・煙体験」を学びました。



ロープ結索



煙体験



テント設営



地元消防団員



搬送法



スリッパ作り

生徒の感想

- ・小学生のころよりもすごくレベルアップしていて、様々な体験ができてうれしかった。
- ・知るだけでなく、行動することの大切さを実感することができた。
- ・中学生にもできることがたくさんある。
- ・いざというときに地域の人たちの力になれる。
- ・自分ができることを探して、周りの人を巻き込んで協力していくことが大切だと感じた。

- ・身近にあるもので災害時に役立つものがいろいろあることが分かった。
- ・一人ではできないこともみんなで協力すればたくさんのことができる。
- ・「助けてもらう」側ではなく「助けてあげられる」側になれるように、防災の知識を身につけたい。
- ・家族など身近な人たちにも教えて、みんなの防災意識を高めていきたい。

モデル地域 オアシス通学団会

中学生が自分の出身小学校へ赴き、通学団ごとに分かれて学んできた防災知識を小学生に伝えました。小学生でも分かるように工夫しながら、防災クイズや新聞紙でのスリッパ作りなどを教えることができました。

その後、通学団と一緒に下校することで、通学路の危険場所の確認をしました。

地域の小中学生が一緒に活動することで、いざというときに助け合える関係を作ることにつながりました。

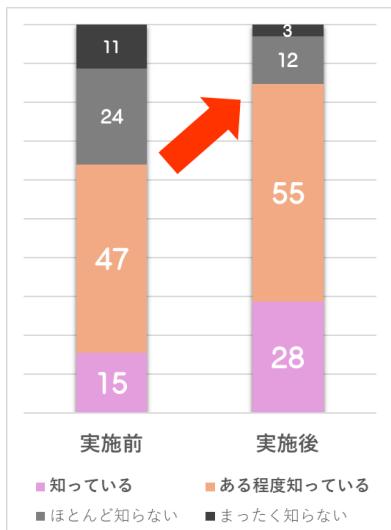


モデル地域での防災アンケート

事業前後に実施した防災アンケート結果を比較

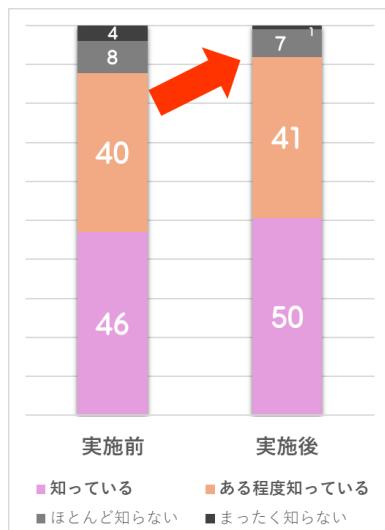
Q 1.

あなたの住む地域における、地震や津波、洪水などの災害における被害想定について知っていますか？



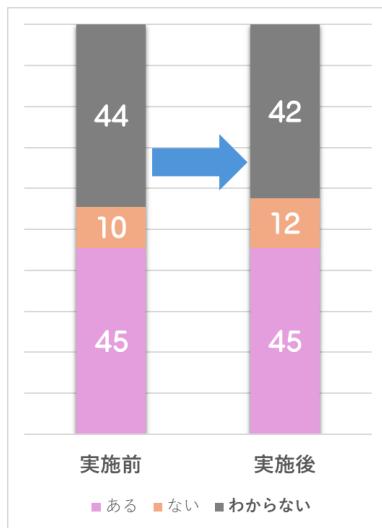
Q 2.

あなたの住む地域における、地震や津波、洪水などの災害に応じた避難場所や避難所を知っていますか？



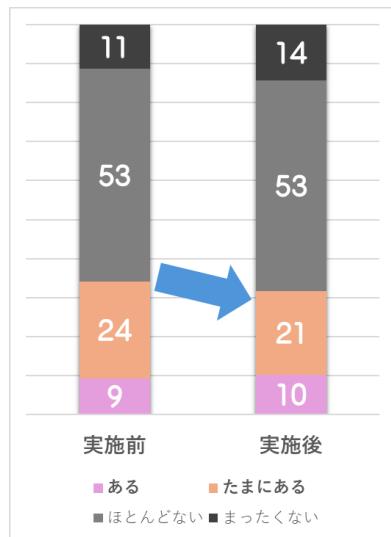
Q 3.

あなたの家では、災害時のために、備蓄品（物資や食料）を準備してありますか？



Q 4.

あなたは家族と、地震などの自然災害について話し合うことがありますか？



Q 5.

災害時、あなたができることがありますか？



アンケート対象

西尾中 1年生／256名
花ノ木小4年生／109名

西尾小 6年生／117名
計482名

成果と課題

様々な活動を通して、「小中学生でもできることはたくさんある」と気づき「守られる側から守る側へ」という防災リーダーとして積極的に活動できる姿が期待できるようになりました。

地元消防団員との防災講座や、保護者参観授業などを通して、地域全体の防災意欲の向上につながりました。また、今後予定している学習発表会や活動報告書による外部への発信などにより、学校・地域の連携の強化が図られました。

一方で、家庭で防災について話し合う児童生徒の割合を増やすことができませんでした。学校だけでは児童生徒の安全を守ることはできないので、保護者や地域の防災意識を継続して高めていくことが必要だと感じられました。

これらの成果と課題を踏まえ、今後も学校安全に係る取り組みをさらに推進してまいります。

防災学習のまとめ

本事業を通して学んだことについて、西尾中1年生が各自でまとめを作成しました。また、西尾小6年生が防災マップを作成しました。

地域にこの学びを広げるために、モデル地域3校の自主防災会などに一部配付しました。



児童生徒が作成したものの一部は、こちらからご覧いただけます。

